

SWCCグループ

2020年3月期 第1四半期
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

July31, 2019

<http://www.swcc.co.jp/>



2020/3期 第1四半期決算総括

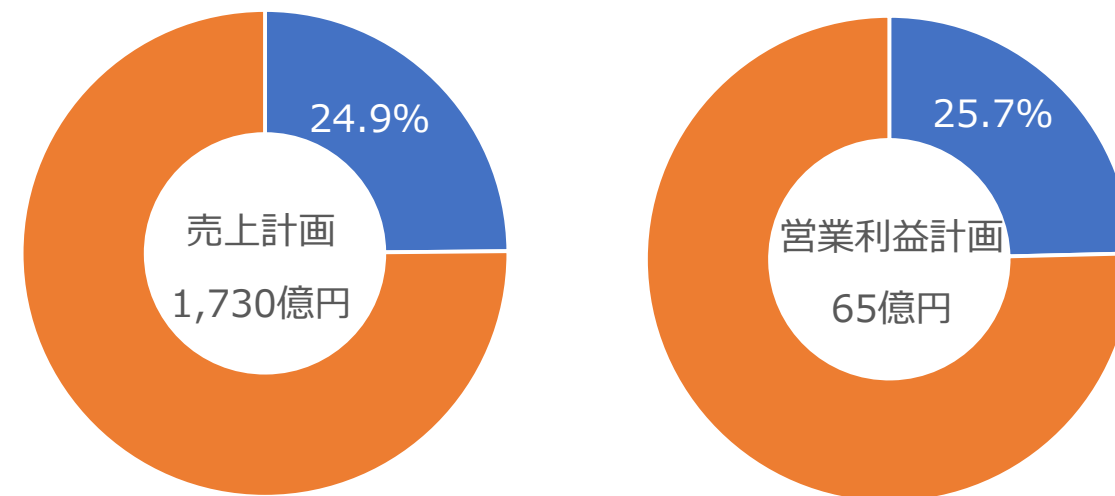
業績：業績は堅調に推移、**前年同期比+1.6%増収・+35.7%増益**

- ・ エネルギー・インフラ事業は、東京オリンピック・パラリンピック需要等による建設関連向けが堅調。また電力インフラの設備更新需要等も堅調に推移。
- ・ 通信・産業用デバイス事業は、海外の光ファイバが低調な結果となりセグメント売上減少。複写機用ローラ等が底堅く、国内建設関連向け通信ケーブルが好調。
- ・ 電装・コンポーネンツ事業は、電装品向け高品位線材は堅調。巻線需要は全体的に減少。

施策面：

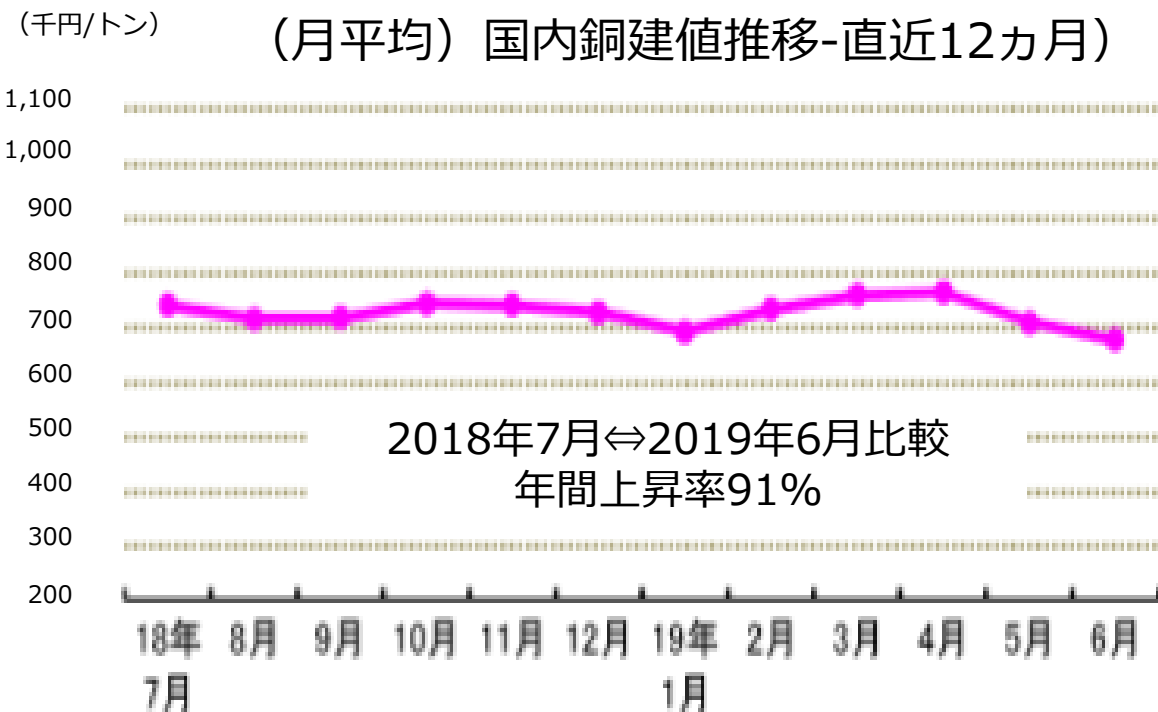
- ・ 建設・電販向けは価格適正化を目指す。
- ・ 電力システム事業は新ビジネスモデルを推進。
- ・ 自動車向け製品の安定供給策を推進。
- ・ 業務効率改善による経費削減。
- ・ 収益性向上（営業利益率UP）を継続

1Q進捗率（売上高/営業利益）（単位：億円）

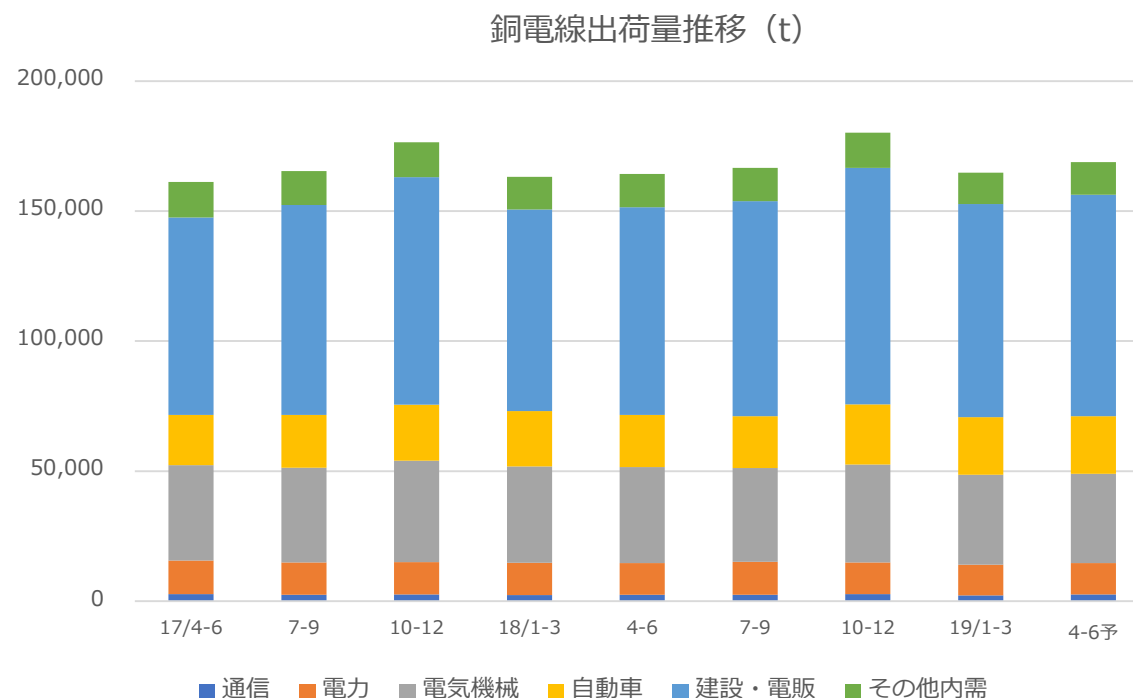


マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は4月以降、中国景気減速もあり若干下落傾向（前年価格▲9%）
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に安定的に推移。



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

1Q 連結損益計算書（前年同期比）

- 売上高は前年同期比 + 1.6%、売上総利益率12.5%と + 0.8P改善。

結果、経常利益は前年同期比+38.3%の15億円となり、**増収・増益**

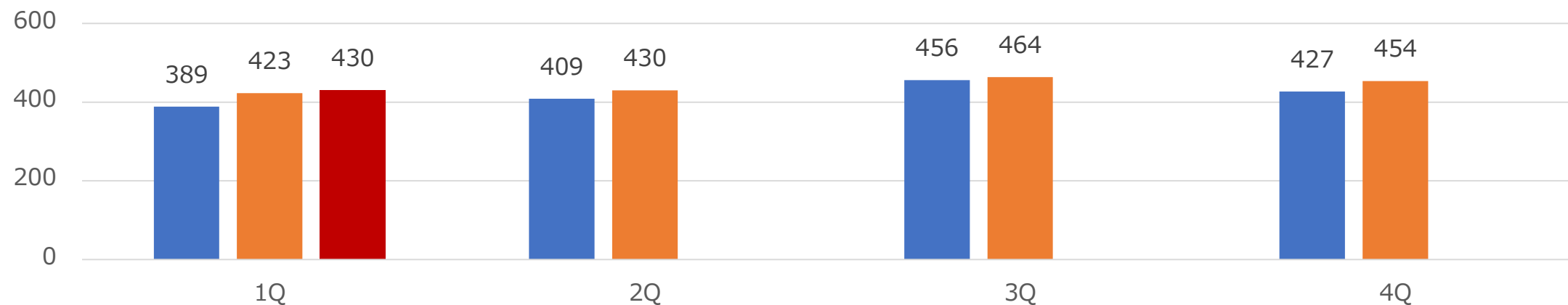
(単位：億円)	2018年度 1Q実績	構成 %	2019年度 1Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	423	—	430	—	+1.6%
売上総利益	49	11.7%	53	12.5%	+8.9%
営業利益	12	2.9%	16	3.9%	+35.7%
経常利益	10	2.6%	15	3.5%	+38.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	8	1.9%	11	2.6%	+39.0%

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

（単位：億円）

四半期毎の売上高推移

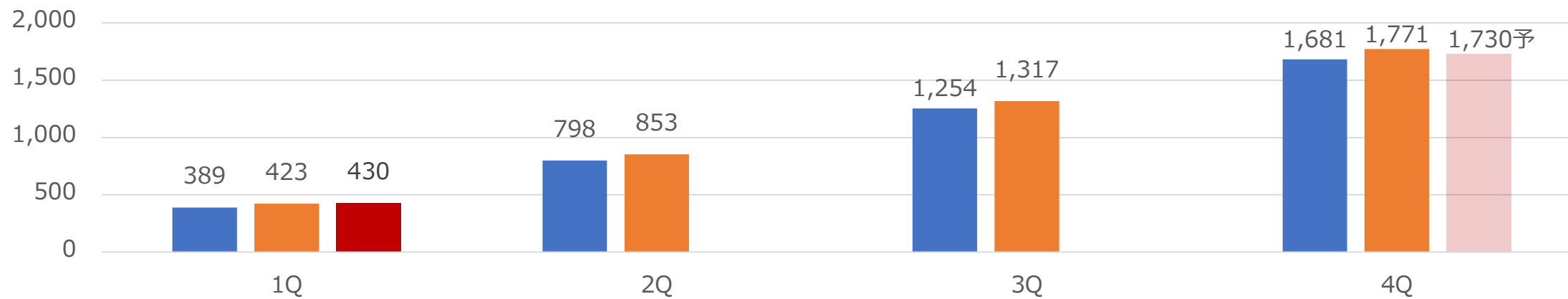
■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度



（単位：億円）

累計売上高推移

■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度

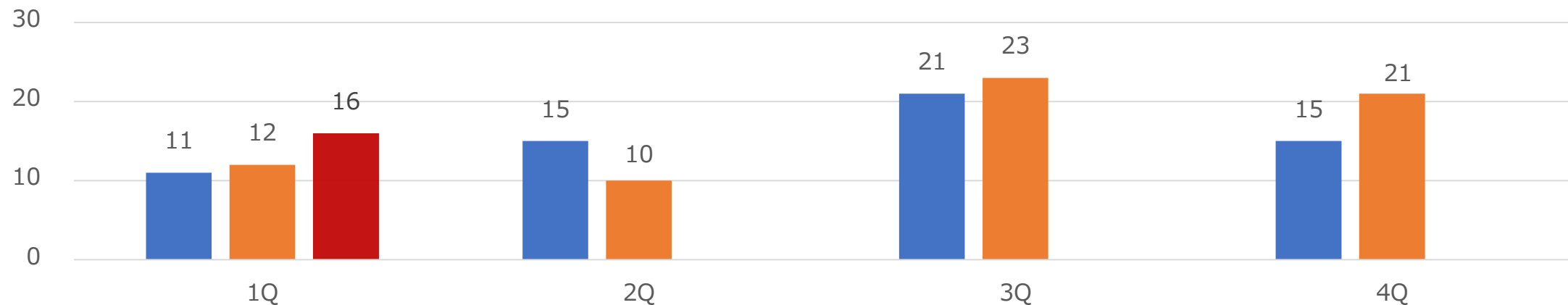


四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

（単位：億円）

四半期毎の営業利益推移

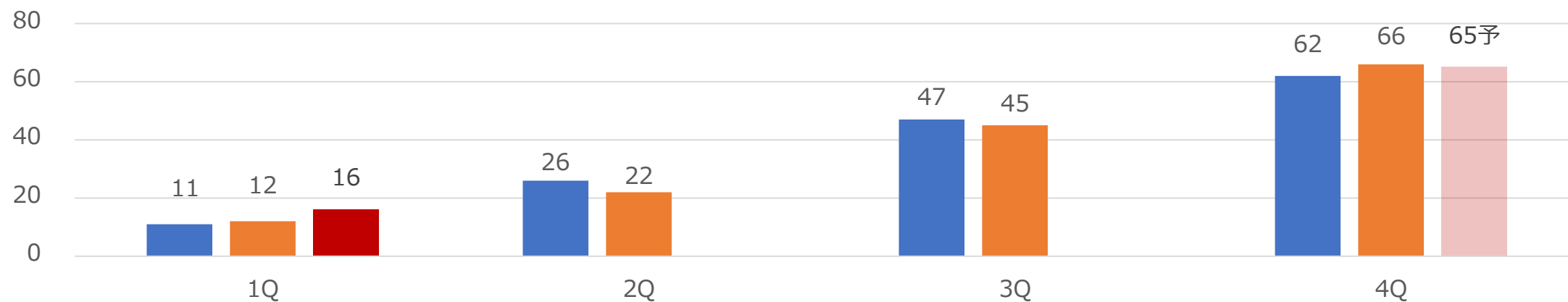
■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度



（単位：億円）

累計営業利益推移

■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度



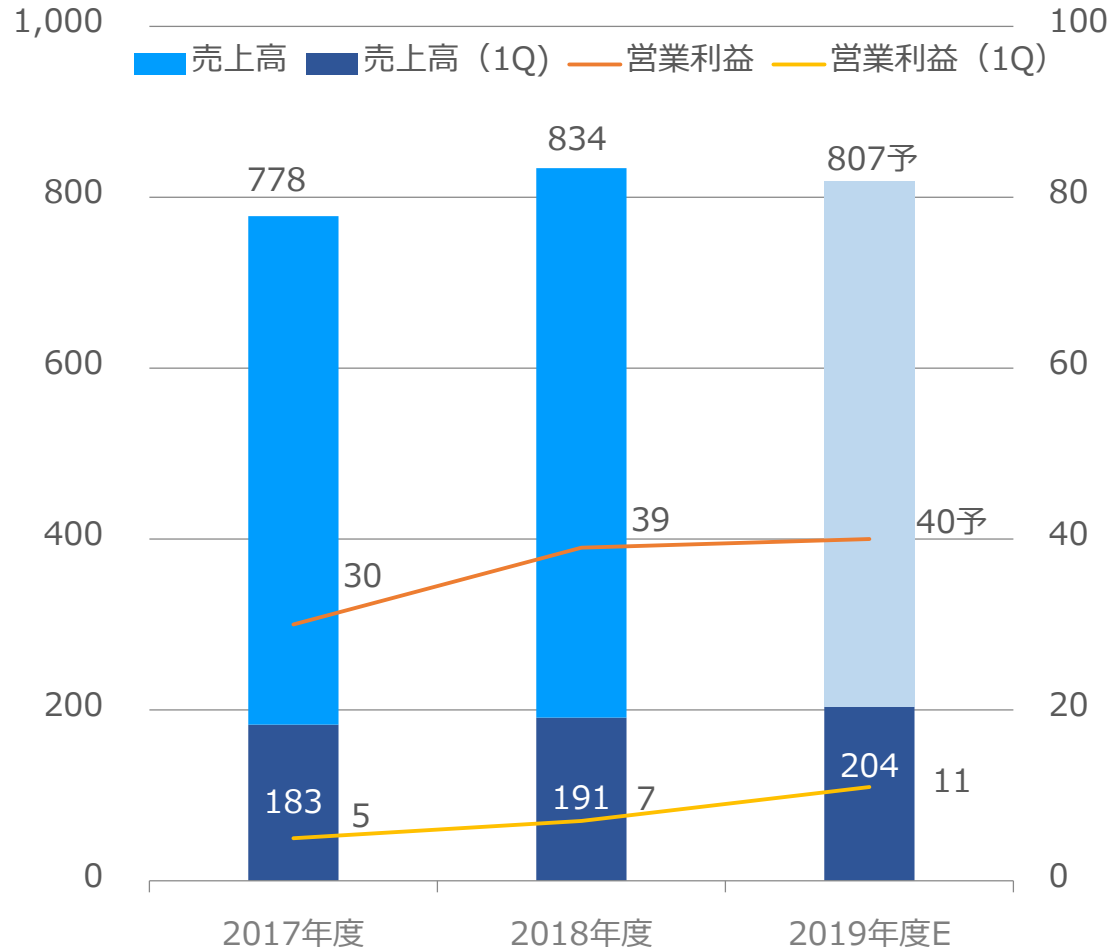
1Q セグメント情報（前年同期比）

- ・ 今期より新セグメント体制を導入。エネルギー・インフラ事業が売上・利益牽引。
通信・産業用デバイスは減収なるも、収益性が改善し増益。

(単位：億円)	2018年度 1Q 実績		2019年度 1Q 実績		増減	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益
エネルギー ・インフラ	191	7 (3.5%)	204	11 (5.5%)	+13	+4
通信・産業用 デバイス	86	4 (4.5%)	83	6 (7.0%)	△3	+2
電装・ コンポーネンツ	134	2 (1.9%)	132	1 (0.9%)	△2	△1
その他 (内新規事業)	12 (7)	△1 (△1)	11 (6)	△2 (△1)	△1	△1
合 計	423	12 (2.9%)	430	16 (3.9%)	+7	+4



(単位：億円)



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。

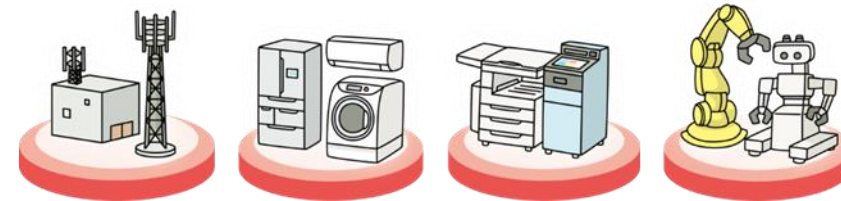
■特徴：当社の基盤事業

- ①発電所から家庭までを繋ぐ電力ケーブル
- ②当社独自の電力機器部品「SICONEX®」
- ③建築物に使われる電線や免震部材

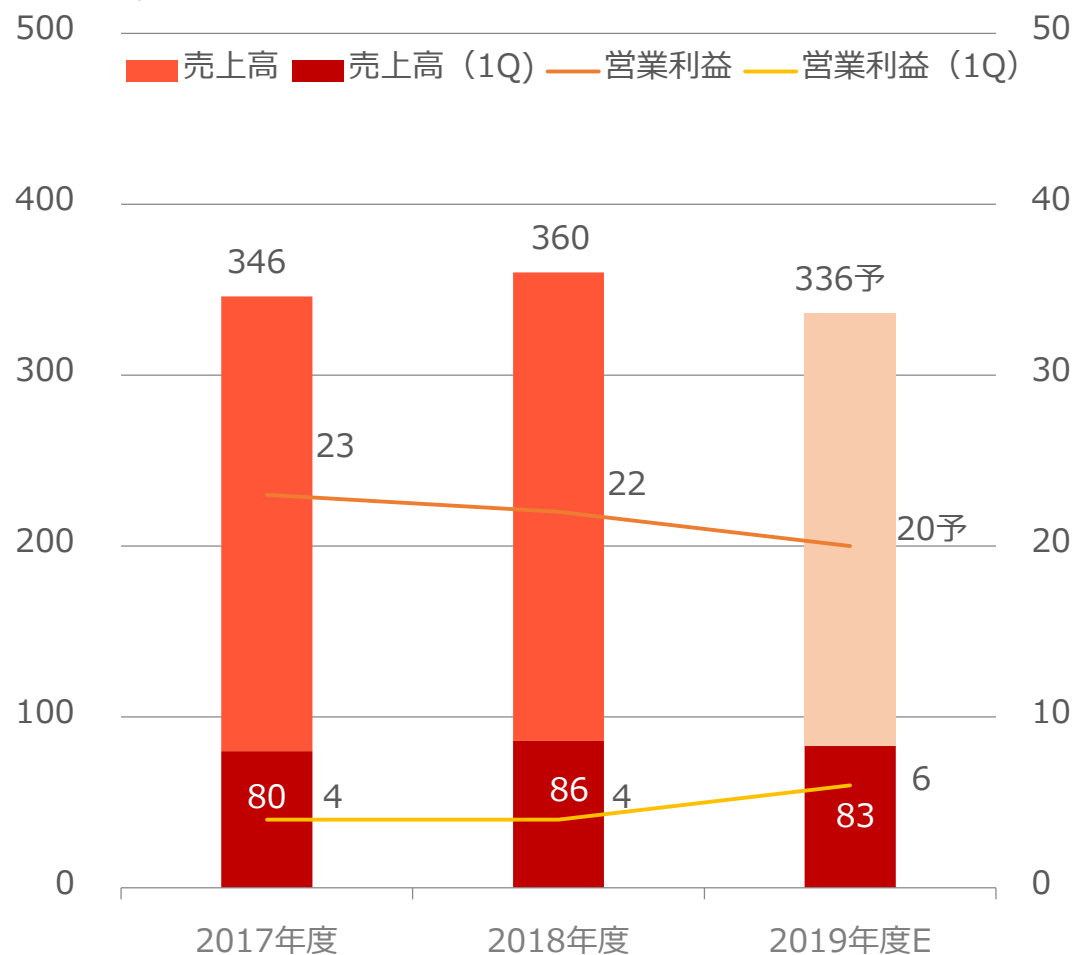
■ 1Qは電力需要・建販需要の継続的な取り込みが順調に推移。売上高204億円（前年同期比+6.6%）、営業利益11億円（前年同期比+68.7%）となった。営業利益率は5.5%（前年同期比+2.0P）。

■ 通期計画：売上高は、国内電力向けおよび建販向け電線が堅調。免震部材、機器電材が減少し、前年度27億円減の807億円を予定。
営業利益は、1億円増の40億円を予定。
営業利益率：5.0%（前年度4.7%）

通信・産業用デバイス事業 実績&業績計画



(単位：億円)



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。

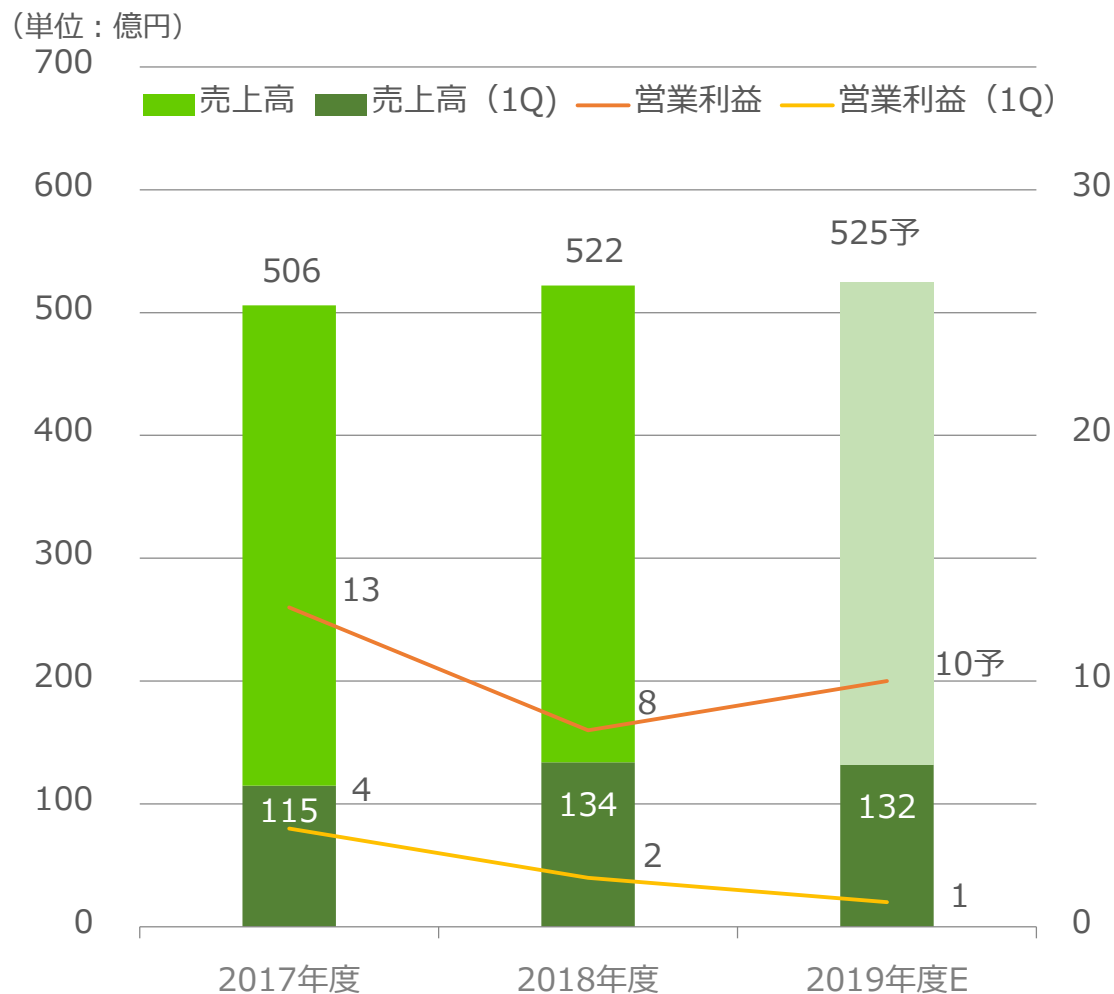
■特徴：様々な市場に向けた通信ケーブルと産業用デバイスをグローバルに提供

■1Qは、海外の光ファイバ需要は前年度下期から市場減速が継続しているが、国内建設関連向け通信ケーブルが好調に推移。

売上高83億円（前年同期比△3.0%）、営業利益6億円（前年同期比+49.5%）となった。営業利益率7.0%（前年同期比+2.5P）。

■通期計画：売上高は、国内向け通信ケーブルおよび産業用デバイスは堅調。海外向け光ファイバ市況は市場低迷が継続すると見込み、前年度を24億円下回る336億円を計画。営業利益は20億円を見込む。

営業利益率：5.8%（前年度6.1%）



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。

■ **特徴**：日本で唯一のディップ・フォーミングシステムで製造した無酸素銅MiDIP® と銅銀合金は戦略製品

■ 1Qは、電装品向け高品位線材は堅調だが、中国市場を始め世界的な景気減速の影響から、巻線需要が全般的に低迷。

売上高132億円（前年同期比△2.1%）、
営業利益1億円（前年同期比△51.7%）となった。営業利益率0.9%（前年同期比△1.0P）

■ **通期計画**：下期以降の回復を見込み、売上高は3億円増の525億円を見込む。無酸素銅・銅銀合金の戦略製品の拡販や高品位巻線により収益性を改善し、営業利益は10億円を見込む。
営業利益率：1.8%（前年度1.6%）

貸借対照表（前期末比較）

・ 自己資本比率は29.3%（前期末比1.2ポイントアップ）

（単位：億円）

	19/3/31	19/6/30	増減
現金・預金	49	37	△12
受取手形・売掛金	434	422	△12
棚卸資産	213	220	+7
その他	45	43	△2
流動資産 計	741	722	△19
有形固定資産	392	393	+1
無形固定資産	12	11	△1
投資その他の資産	96	108	+12
固定資産 計	500	512	+12
資産 合計	1,241	1,234	△7

	19/3/31	19/6/30	増減
支払手形・買掛金	212	203	△9
短期借入金	335	347	+12
その他	150	137	△13
流動負債 計	697	687	△10
長期借入金	121	114	△7
その他	67	66	△1
固定負債 計	188	180	△8
負債 合計	885	867	△18
資本金	242	242	0
資本剰余金	55	55	0
利益剰余金	10	19	+9
その他	49	51	+2
純資産 合計	356	367	+11
負債・純資産 合計	1,241	1,234	△7

2020/3期 通期業績予想

- ・ 2019年度業績は、2018年度と同水準を想定

(単位：億円)	2018年度 実績	構成 %	2019年度 計画	構成 %
売上高	1,771	—	1,730	—
売上総利益	217	12.3%	—	—
営業利益	66	3.8%	65	3.8%
経常利益	56	3.2%	58	3.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	45	2.6%	45	2.7%



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。

<http://www.swcc.co.jp/>